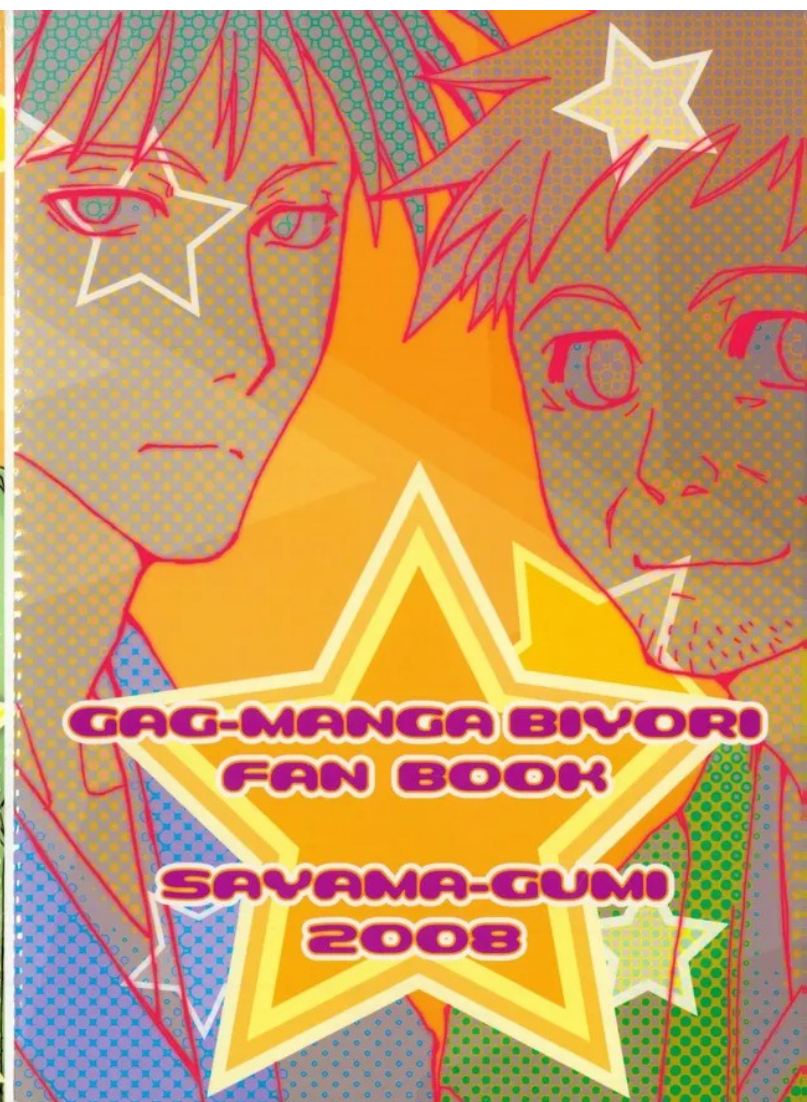
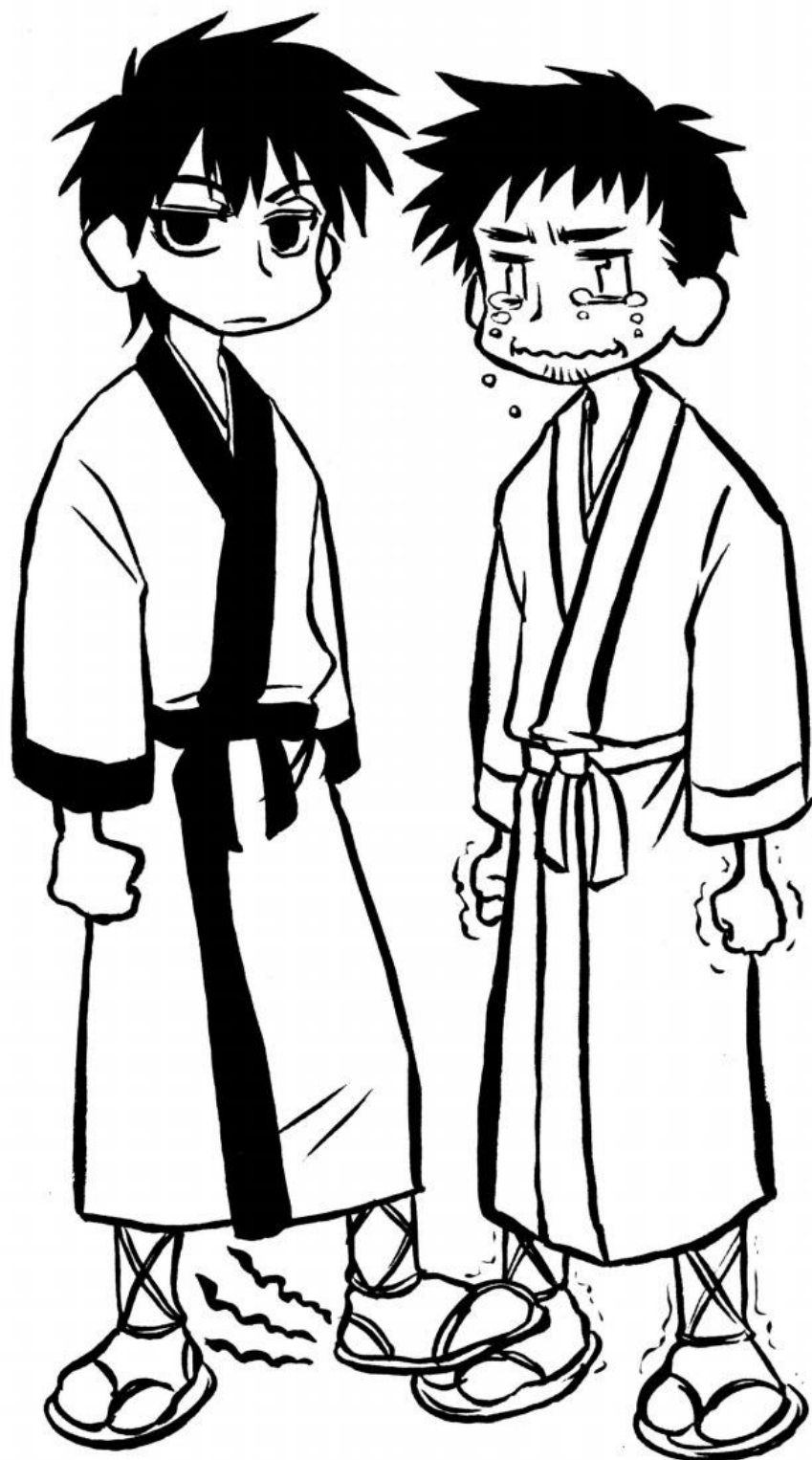




みちのく おディズニーランド ジャーニー



はじめに

毎度ありがとうございます。

「33分探偵」を観ていて、「実写版の芭蕉さんは高橋克実で決まりだな」と天啓を得たような気分になっている中年好きでおなじみのサヤマユキヒロと申します。

そうすると曾良くんは誰がいいだろうか。20代で鬼のオーラを持つクールビューティとなるとなかなか…いっそ史実にあわせて芭蕉さんよりちょっと年下ってことで阿部寛でいんじゃないか？ いやいっそ阿部が芭蕉さんでいいよ、いいってもう。要がジャガーさんやる時代だし。見てないけど。

などと本末転倒な堂々巡りを繰り返しております。嘘。そんなに繰り返してない。

まじめに考えると（阿部があながちふまじめとは言わない）曾良くんは長瀬智也あたりがいいかな…もうちょっと細身がいいけど…

関係ないですが太子は前田剛氏でいいと思います。妹子は見当もつきません。

さて、本文とはまったく関係ない話でお茶を濁した（つもりの気になっている）ところで本文へどうぞ。

ああそうだ、タイトルはいつか使ったろうと思っていただけで特に内容とは関係ありません。

200809 サヤマユキヒロ



ウウウ...どうして
曾良くんなんか
お供を頼んじゃった
だろう...

もっとこう
師匠を敬って、
師匠を立てて、
師匠に暴力を
振るわない弟子に
すればよかった...

おと師匠のまを歩かなく
て、お供を頼んでくた
す、お供を頼んでくた
す、お供を頼んでくた



そつだ! 女の子!
いつそ曾良くんが
女の子だったら
ドウだろう!?

しもの
はちみつ漬け
作ってきまし

気立てがよくて
やさしくて、
さしいれとか
持ってきて
くれたりして...



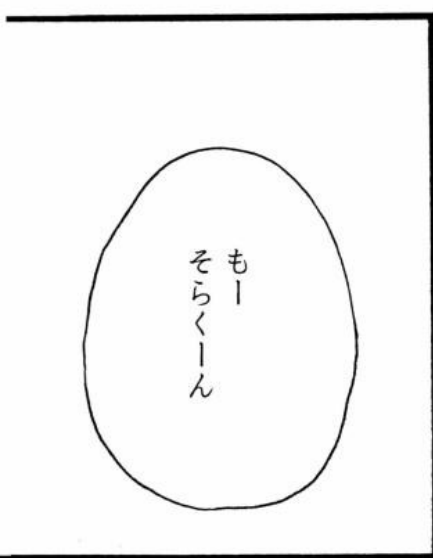
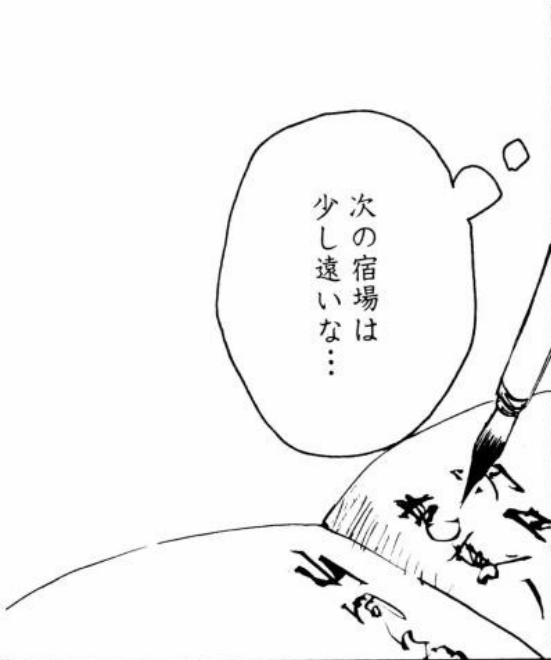
なにも
変わらないと
思いますよ

そうだね
まったく
身をもつて
そう思うよ
...

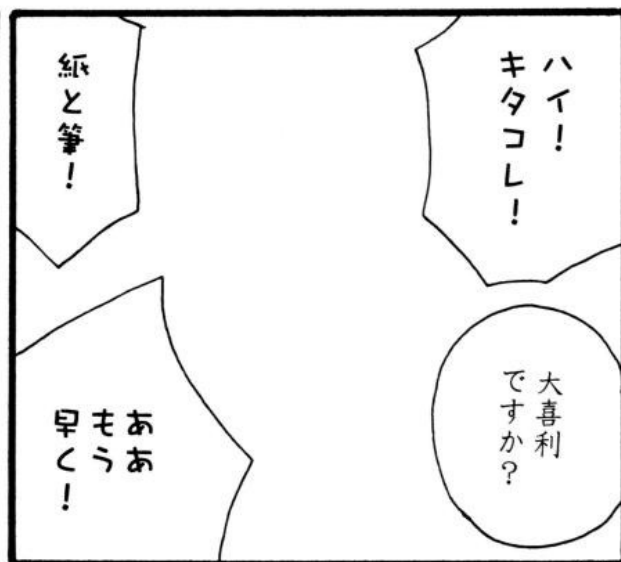
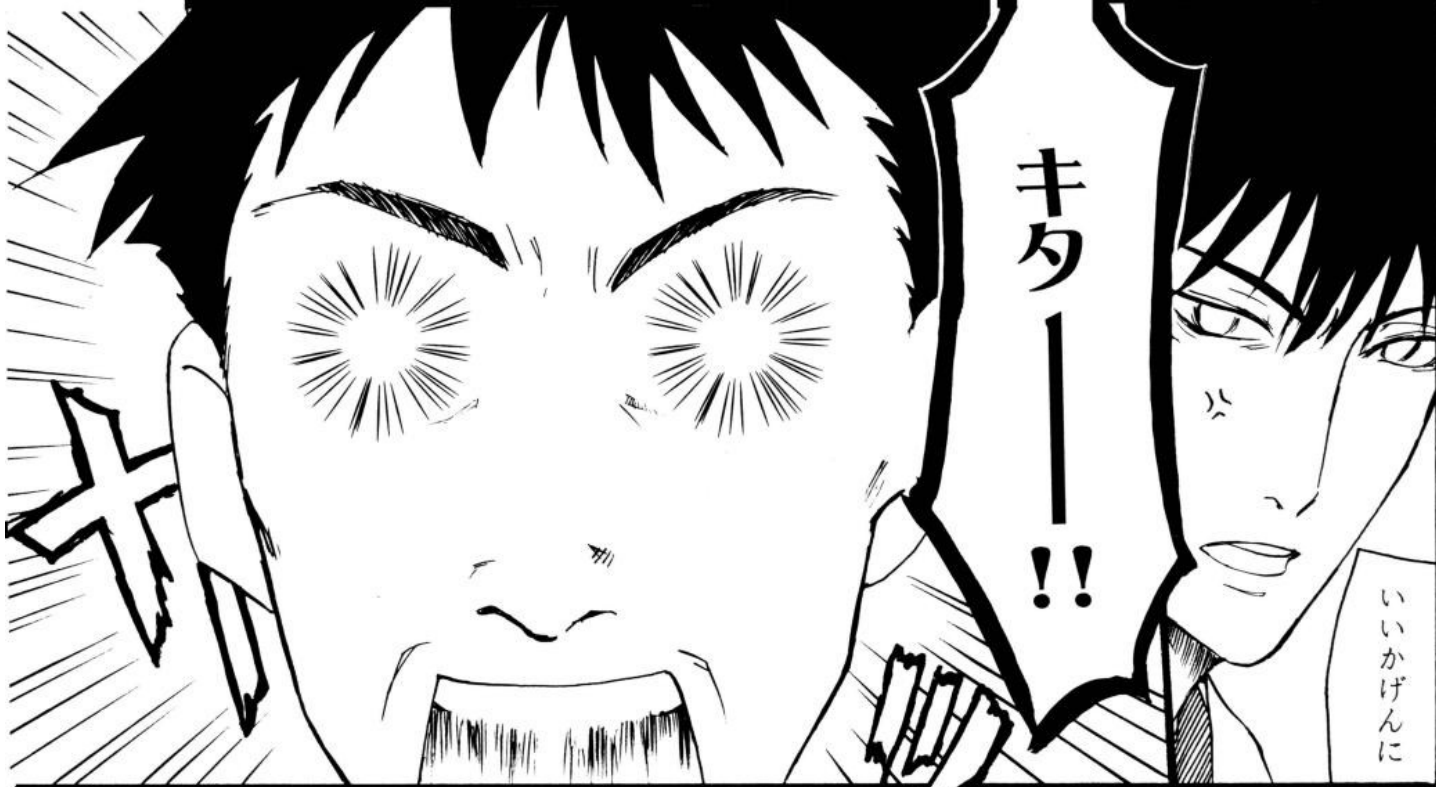
すごいよ、
穴という穴から
血が出たよ...

僕であ
り上は

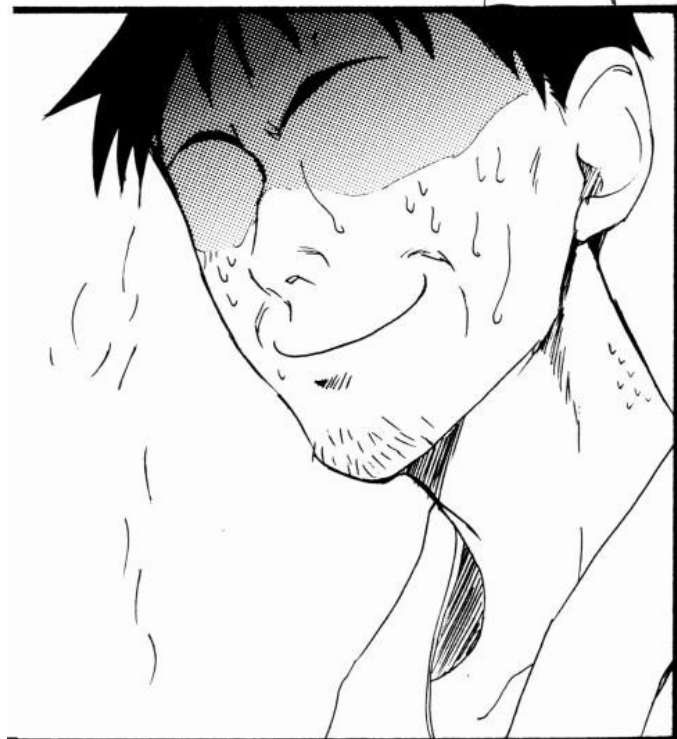
みちのく
サディステック☆
ジャーニー

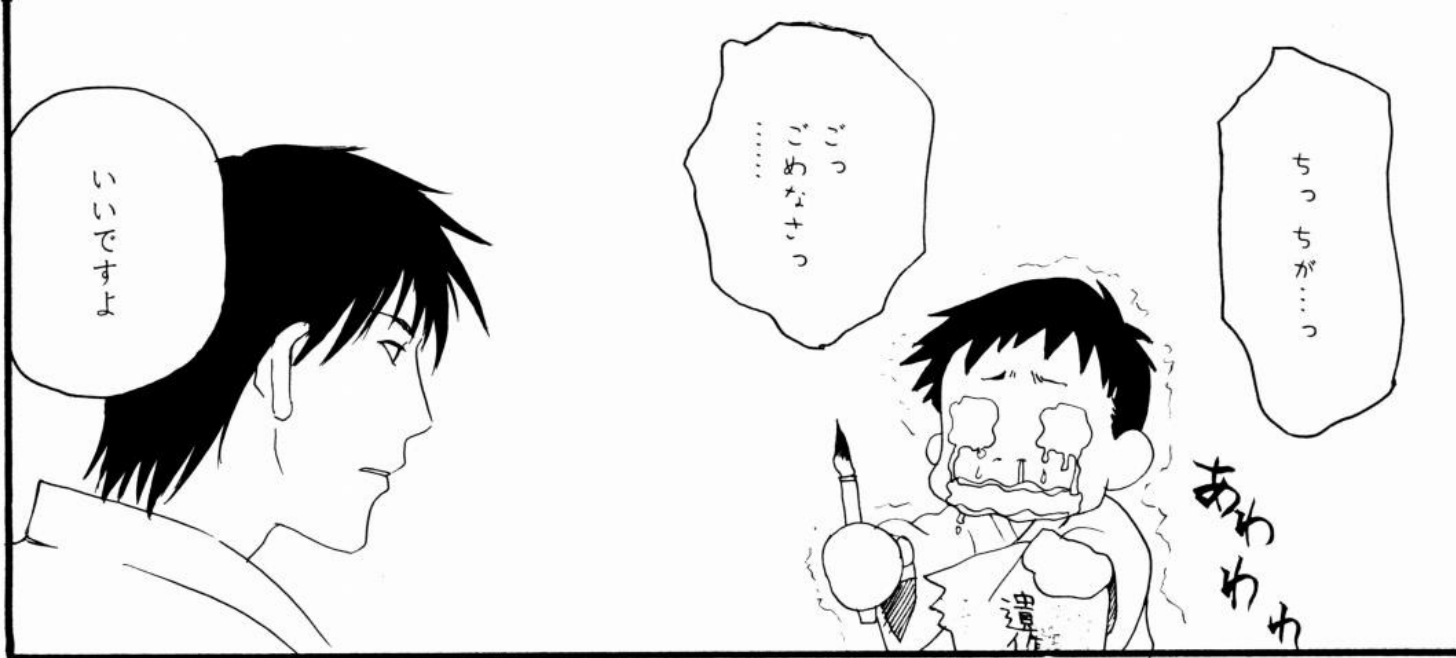




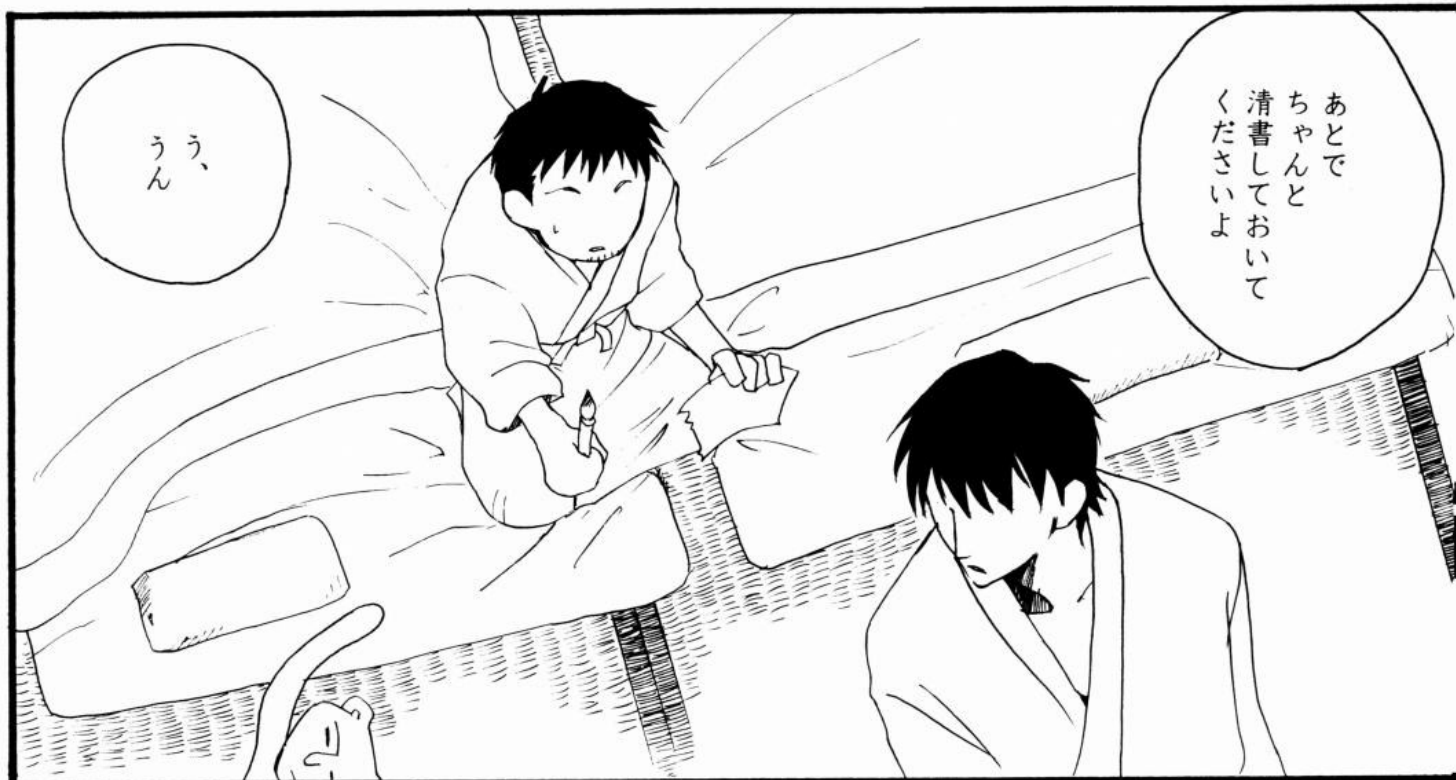


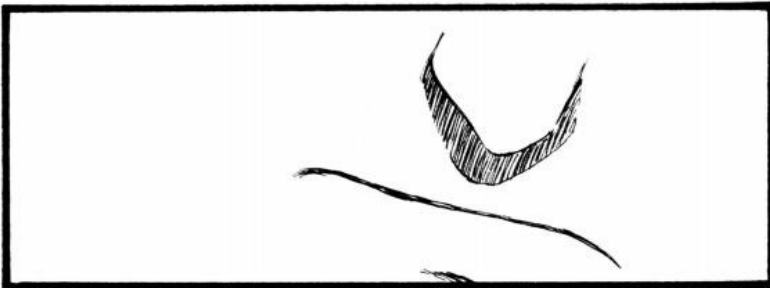




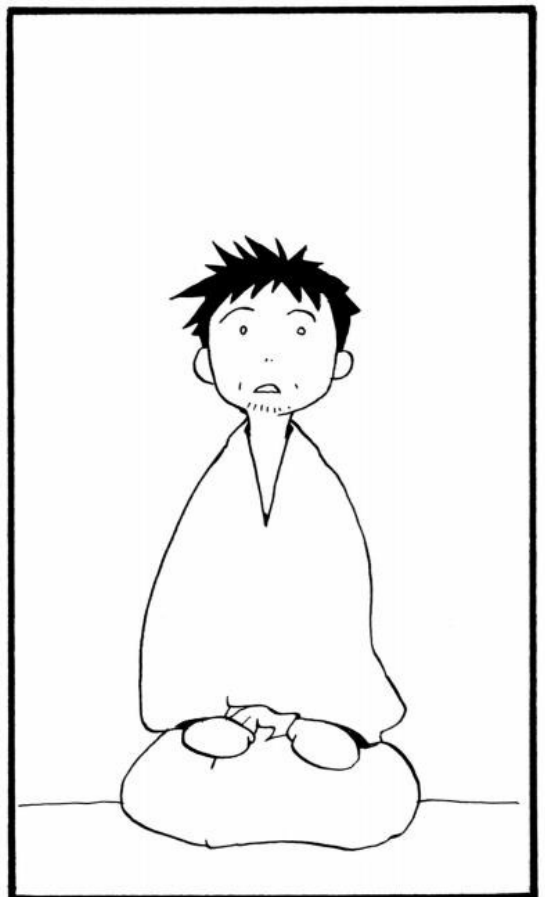


「ちょw この家ノミとカシラミばっかで、馬まで一緒に住んでて超ウケるんだけどwww」みたいな意味





芭蕉さんは
どうして
俳諧の道を
選んだんですか





ホラ、松尾
天才だから？

型にはまった
生き方が
できないっていうの？

もく もく

それから、
俳句を教えたり
アルバイトしたり、
日銭を稼いで
凌ぐ生活

私、こう見えて
実は飽きっぽくて
こらえ性ないとこ
あるんだけどね

知って
ます

…そこは
応えるんだ…

—でも、
俳句に関することは
どんなに大変なことでも
楽しいと思えるんだ

俳句だけは
皆が認めてくれた
っていうのも
あるかな

俳句を知ってからは、
それまで見過ごしてた
ささいなことも、
すごくきれいで
愛しくて、
大切なものに見えたりして



そういう気持ちを
少ないことばに
とじこめて、
だれかに伝える
っていうことが
すごく楽しくて



もう
俳句なしじゃ
生きていけなく
なっちゃったんだな







なんですか

ううん

なんでもないよ
おやすみ

おやすみ
なさい

今……

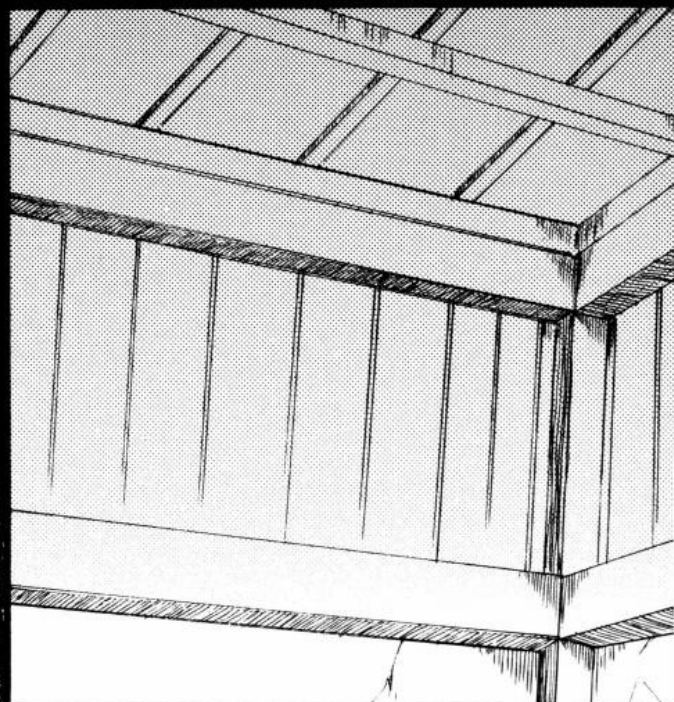
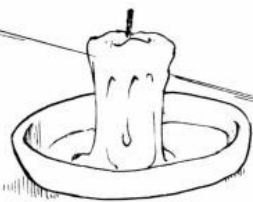
笑ってた？



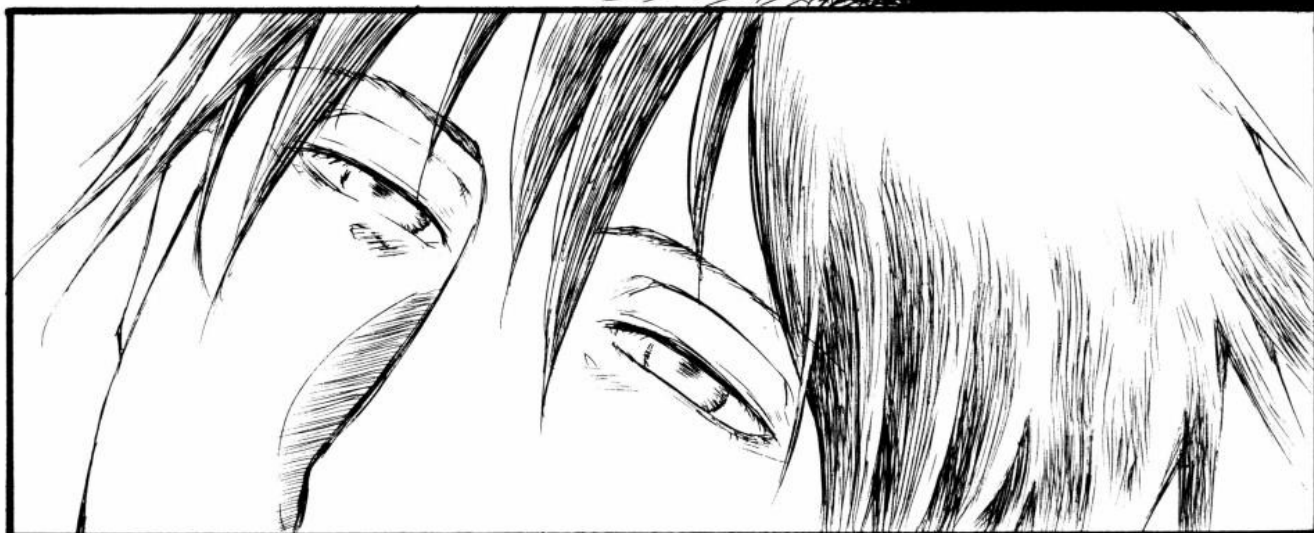




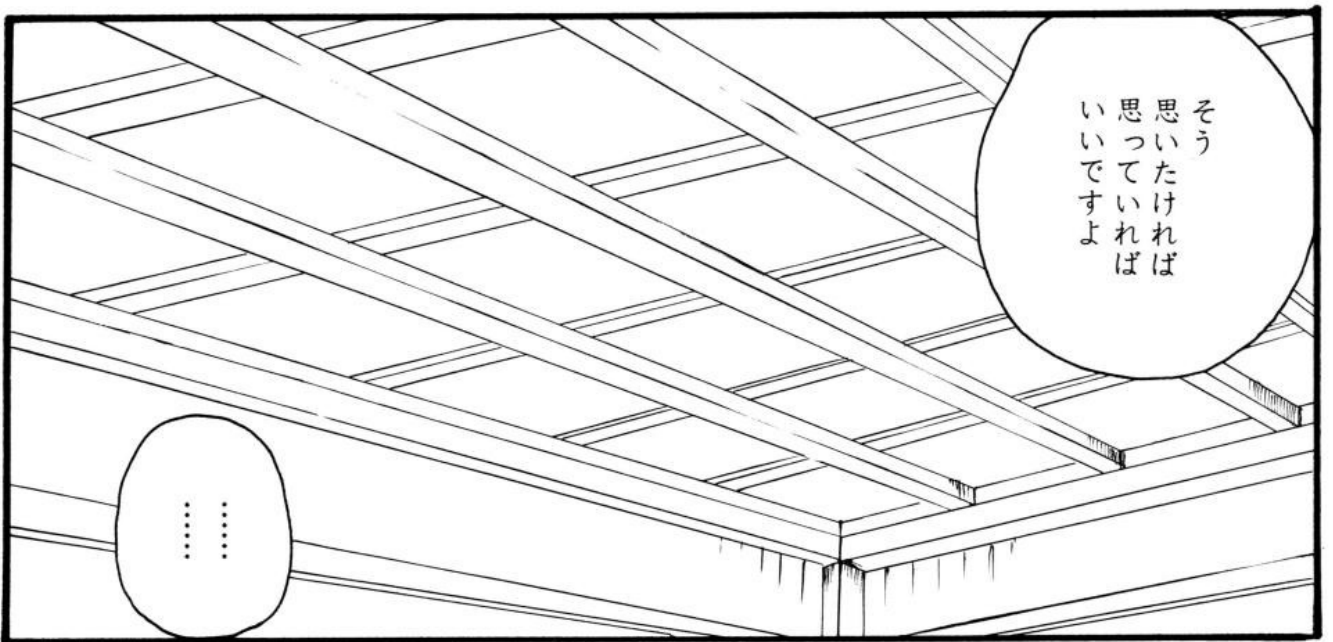
MICHINOKU
sadistic☆journey



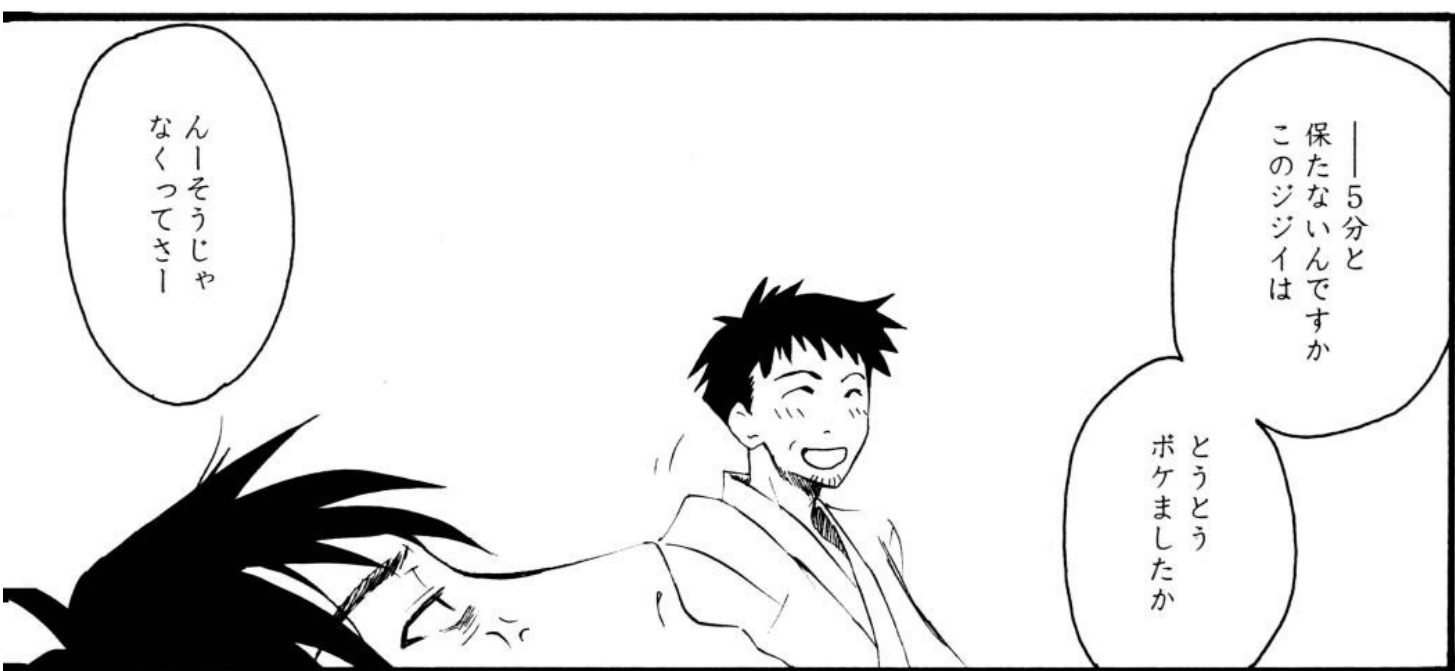
曾良くんは
どうして
私の弟子に
なったの？











曾良くんて
やっぱり
やさしいよねえ

ゴ
ミ
カ
ア
ア
ア



あなたという人は
本当にどこまで……

え!?

なんで!?
なにコレ!

ツンデレって
レベルじゃ
ねーぞ!

ゴ
ミ
カ
ア
ア
ア



いや…
私がいつも
こんなんで、
世話かけっぱなしで
ホントすみません…

というですね、
日頃の感謝というか、
それを伝えなかった
だけだよ





それがあなたの
お供である
僕の務めなんだから
当たり前です



あなたは、
余計なことは考えず
俳句を詠んでいれば
いいんです

はい
ごもつともです

すみません



いいかげんに
しないと
外に吊るしますよ

はい、
もう寝ます

命がけで
寝ますから
かんべん
してください



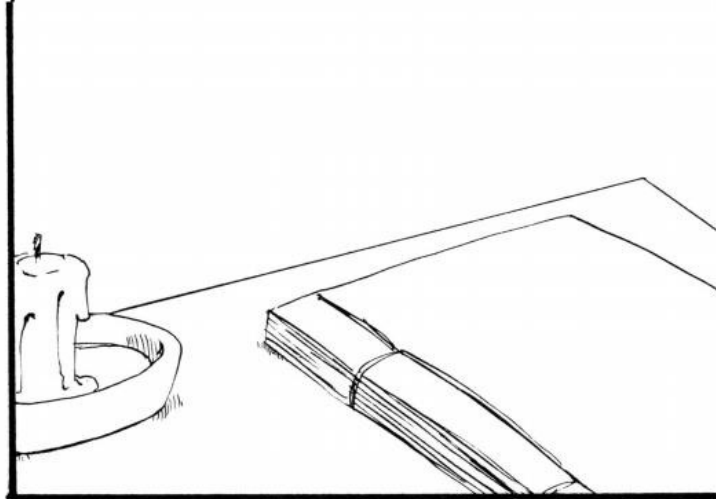


苛立つ理由は
自明である



さりとて 己では
如何ともし難く





ひと言で
云うとね

芭蕉さん



僕も
病気なんですよ

MICHINOKU
sadistic☆journey

おわりに

毎度ありがとうございました。おはようからおやすみまで、くらしを見つめることもあるサヤマユキヒロです。

どうしてか必ず舞台が宿になるのはどうしたことか。どうしてか重なるほど不思議。服が白くて大変。曾良くんの衿のベタの有無でこうも画面が違ってくるとは。

てゆうか見事に前回と同じパターンになっちゃったよ…
想定しているうちではとりあえず宿話はこれきりですが…お蔵にしたほも話をのぞけば…

そばについて。

曾良くんはいうほど（誰が？）ツンデレではないと思います。受け答えは意外と素直だし。「芭蕉さんのために労力を割く」とかそういう段になると表には出したがらないようすではありますが。

関係ないですが「僕が突撃って言ったら突撃すること！」てかわいいですよ。ね。「すること！」て。かわいい。ほんとに関係なかったな。もどす。

芭蕉さんも天然さんなので、ツンだったりデレだったりされても、その場その場でストレートに受け取って憤慨したり調子にのったりするだけなので意味なさそうだし。

そういえばちらほらと調べてみたら、実在の松尾芭蕉は衆道家だったみたいですね。まああの頃は男同士ですけど何か？ っていう時代だったそうですしね。戦国時代に至っては武士のたしなみくらいの勢いですものね。何百年ものちに若い娘さん方からキャーキャーいわれる種を残したつもりはなかったでしょうがね…

曾良くんとは表立っては特に何もなかったようですが。表立たれてもなんですけど。

この本はフィクションですからそのあたりの史実とは、ばしょさんの身の上話も俳句の解釈も関係ありませんよ。

またちらほらと陰気な本を作っていきたいと思っていますのでよろしくどうぞ。今回みたいなきらびやかな表紙（これでも）は、きつともう、ない。

芭蕉さんをかわいくしたらいいのか、おっさんのままでいいのか、多少趣味に走って（かっこよくして）いいのか迷いつつ。気を抜くとすごく描き込みをしたがる自分が…

200809 サヤマユキヒロ



みちのく サディスティック☆ ジャーニー

ギャグマンガ日和 Fan Book

2008. 9. 28

狭山組 No. 84

<http://www.sayama-gumi.com>

印刷 大陽出版

本書は原作者・出版社とは一切関係ありません。
本書の無断転載・複写等の行為を禁じます。